

皆さま、こんにちは。本日は、早稲田大学の勝間靖先生にお話を伺います。先生、今日はどうぞよろしく申し上げます。

勝間と申します。よろしく申し上げます。

本日は、先生に三つの事をお伺いできればと思っています。まず、一つ目はなぜ UHC が重要だと思われたのか、先生がユニセフにいらっしゃった時のご経験を含めてお話いただきます。二つ目は、なぜ日本が国際的に UHC を推進しようとするのか、その意義についてお伺いします。そして、最後に私達ユースへのメッセージをいただければと考えています。では、まずなぜ UHC が重要だと思われたのか、ユニセフにいらっしゃった時のご経験も含めてお願いします。

はい。今、私は早稲田大学の教員なのですが、それ以前は国連児童基金（ユニセフ）の職員として途上国で様々な活動をしてきました。最初にですね、行った国はメキシコだったんですが、1998 年のことです。メキシコにおいて、子どもの栄養状況の調査に関わることがありました。そこで気がついたのは、メキシコの南部の州、チアパス州であるとか、オアハカ州では非常に子どもの栄養状況が悪いということだったんですね。そういったデータを見るなかで、同じ国の中でも州ごとにおいて大きな格差があるということが分かりました。また、州においてもですね、州の中においても、先住民族の子どもたちの栄養状況が非常に悪いということが分かりました。

こういった国の中の格差を見るなかで、「すべての人に健康を」というスローガンがあるにも関わらず、実体は非常に格差の多いものだということが問題意識として感じたわけです。その後、アフガニスタンに移りまして、2000 年の事なのですが、アフガニスタンはさらにですね、「すべての人に健康を」というスローガンからは非常に程遠い国だということがありました。まず、紛争において予防接種を受けられない子どもがたくさんいるということです。アフガニスタンはですね、ポリオの汚染国ということがあったわけですが、ポリオの予防接種を行うためにタリバン側と北部同盟側との間で休戦協定を結ばなくていけないと、そういった状況がありました。そうやって休戦協定を結んで予防接種を進めたとしてもですね、少数民族の人たちが多く住む地域には立ち入ることができないというような難しさもありました。また、女性の健康の視点から言いますと、アフガニスタンでは女性はなかなか家の外に出ることが許されないということがあります。ですから、妊産婦の方が診療を求めていることがあってもですね、自宅分娩が中心の国ですからなかなか家を出ることが許されないということがあります。

よく 3 つの遅れということがありますが、まずそもそも医療サービスを求めることが遅れてしまうということがあります。そして、医療サービスを求めようとしてもですね、交通手段がない、あるいは道路が整備されていないという遅れがあります。3 つ目にですね、病院にたどり着いたとしても、そこに質の高

い医療サービスを提供できるような医療従事者がいなかったり、あるいは医薬品がなかったりと、そういった問題があるわけです。そういう意味では、すべての人に健康と言うけれど、アフガニスタンをはじめですね、多くの場所においてそういった権利が奪われてると、そういった人たちがたくさんいると。そういったなかで、UHC、つまり「すべての人に健康を」、ということをやっているといかなくていけないという風に思いました。

では、次になぜ日本が国際的に UHC を推進しようとするのか、その意義についてお願いします。

はい。日本はですね、「人間の安全保障」という概念を外交の柱の一つとしてきているわけです。それはですね、すべての人に安心安全をということなわけなのですが、そのなかで、「すべての人に健康を」ということは非常に重要な分野だということが言えます。そういう意味で、日本としては国際協力を進めるなかで、人間の安全保障の原則をもとにですね、UHC の推進をしているということになります。それはですね、日本において国民皆保険の制度を早く作ったと、そして、これだけですね、非常に高い平均寿命をもつと、こういった国に発展してきたわけですので、日本の経験を踏まえて他の途上国に対して経験を伝えるという側面もあるかと思えます。もちろんですね、途上国の現状ってのは非常に様々ですので、日本のやり方をそのまま他の国で模倣することは難しいと思いますが、それぞれの国に合ったやり方で UHC を推進することが重要かと思えます。

またですね、日本は今年 G20 サミットのホスト国だったわけですが、そのなかで保健大臣会合を開いたり、あるいは保健大臣と財務大臣との共同会合を開くということで、UHC の重要性を保健大臣のあいだで議論するというだけでなく、国民皆保険、UHC に向けてですね、財務的なサポートをつけるということを財務大臣とも協議したということで、非常に大きな役割を果たしたというふうに思っています。

先生、今日はありがとうございました。最後に、私達ユースへのメッセージをお願いします。

はい。若い皆さんへのメッセージなんですが、皆さんにはグローバルヘルスのリーダーとなっていきたいというふうに思っています。まず、最初に大事なことは、「健康への権利」というものがすべての人にあると、そして、「すべての人に健康を」ということが国際目標として掲げられています。また、持続可能な開発目標の中でもユニバーサルヘルスカバレッジ (UHC) の達成というのが、国連加盟国すべてによって合意されているわけです。そういう意味では、これは進めるべきものと国際社会で合意されていることなんですが、それを実際に色々な状況にある途上国で進めるためには、皆さんのリーダーシップが非常に重要だということがあります。そういう意味では、世界のすべての若者

たちがグローバルヘルスのリーダーとして、国家がすでに合意してることですが、皆さんのそれぞれの役割において是非進めていただきたいというふうに思います。

次にですね、日本の若者に対するメッセージなんですが、先ほどまで途上国における UHC の推進ということをお話したわけですが、私たちの住む日本においても、実は UHC に漏れてしまっている人たちがいるかもしれない、ということをお話ししていただきたいと思います。日本ではですね、移民、そして難民、そういった人たちもいますし、あるいは何らかの国内における格差の貧困において、UHC から漏れてしまっている人がいるかもしれない。そういう人たちが、健康への権利を実現できるようにするためにはどうすればいいかということで、国内が大きくですね変動する中で、皆さんにとってそのお膝元である日本において、我々が当然のように思っている UHC を享受できないでいていない人達の事も少し考えていただきたいというふうに思います。

先生、今日はありがとうございました。本日お話を伺って、先生の熱いパッションに触れさせていただきまして、日本は国民皆保険を達成しているわけですが、UHC から漏れている人びとがいるかもしれない、だからこそ私たちユースは、この問題に意識的に取り組むことが必要なんだと改めて感じました。本当にありがとうございました。

ありがとうございました。